

学生を社会へ送り出す最終学府として、大学が果たすべき役割は非常に大きいと思います。大学卒業後、『社会で必要とされる人材として活躍してもらいたい』との強い願いをもって日々学生たちに関わっており、責任は非常に重大ですが、同時に学生たちが真摯に学び、様々な経験を通して飛躍的に成長していく姿を間近で見られることは、教員として最大の喜びでもあります。

現在、女性の社会進出が強く叫ばれる時代になりましたが、今後はさらにその要請は強まるものと思います。そこで、私は次世代の女性リーダー育成の必要性を意識し、女性の観点から、強さと女性としての優しさも兼ね備えた人材を育成していくことこそが、女性教育者としての使命だと思っています。

このような思いが徐々に形となり、警察官や刑務官、市役所職員、法科大学院への進学等、入学当初の目標を実現した女子卒業生が増加しています。その要因の1つに、月に1度行う『女子会』があるのではないかと考えます。卒業生・先輩女子学生と後輩女子学生と一緒に会して座談会を行うのですが、卒業生・先輩女子学生が努力・成功を示し、後輩女子学生を育成する。後輩女子学生も実践の形で先輩の姿を見て体験談を聴くことで、目標を明確にし、真摯に努力を続け成功に繋がる。このような正のスパイラルが、次世代の女性リーダーを育てる上で非常に重要ではないでしょうか。

幸い、大学教員は男女差別を感じる場面はほとんどなく、そのような意味では非常に幸せな職場であると思いますが、まだ多くの職場や社会では男女が平等に扱われない環境が存在すると感じます。朝日大学法学部で人権感覚を養い多くを学んだ女子学生たちが、就職先で様々な改革をし、いつかは「女性を男性と平等に」という発言すら出ない世の中になることが私の希望です。男女の平等とは、形式論ではなく実質的に等しく扱われることだと思います。法学部で学問を修める女子学生たちには大いに期待していますし、私もこれまで以上に頑張らなければならないと思っています。



瑞穂市男女共同参画推進審議会会長

朝日大学法学部専任講師

みやさか

かおり

宮坂

果麻理さん

女性にむけて一言！：新たな自分に出会うチャレンジを！

瑞穂市  
男女共同参画

